

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員個々が地域密着のサービスの意義を理解している又、事業所独自の理念は、日々意識を保つ為にも入口正面に掲示され、2Fにも掲示されている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り、ケア会議等で日常的に話し合いながら、理念の確認共有に努めている、又、事業者独自の目標を毎年決めて理念と共に日々のサービスの中で反映させていくよう努力している	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業者の理念は、運営推進会議において家族、町内会の方々に、活動内容を報告しながら伝えられており理解されている、又、面会時の家族にも周知されるよう目立つ所に掲示しパンフレットにも記載されており、折にふれて説明されている	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の清掃活動・行事等には積極的に参加しているも毎年恒例化された交流の参加に留まっている。今後は日常的な付き合いが出来るよう模索する必要がある。	○ キャラバンメイトにおいては、今後予定に入っており、地域の認知症活動に寄与している。又、見学・ボランティアにおいては常時受け付けており、その際の利用者様のプライバシーにも配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員において自己評価に取り組み、普段かの利用者様との関わりについて見直す等、意識は理解している。また、外部評価への結果は真摯に受け止めサービス向上につなげるよう取り組んでいる。	○	指摘されたことは、すぐに改善していく努力をすることにより質の良いサービスを提供しているようにしている。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事活動の内容の報告、利用者様の状況、外部評価とその改善点等説明し公表している。会議における意見アイデア、助言等はその都度、他の職員にも申し送りをし、サービスの向上に反映させている。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	権利擁護や成年後継制度は今後更に必要性があると認識している為、講義や研修の機会があれば参加している。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員が理解しておらず活用できていない。	○	地域権利擁護事業や、青年後見制度は今後ニーズが増えてくると思います。概ね概要は理解しているものの詳細については外部評価の参加によって学ぶ必要性がありその機会はある。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や虐待未遂等の行為はまったく無いが、高齢者虐待のテレビ等の報道から、全職員に意見交換話し合い等して、意識付けしており又、職員のストレスにも影響があるので外部研修に参加して共有すること学ぶ機会はあるので参加したい。	○	外部研修を通してスタッフ一人ひとりが虐待防止関連法について理解するよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の方に理解してもらえるように、当ホームを案内しながら説明している。また、重要事項書類を詳しく説明し同意を得ている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えられている利用者様には迅速に対応しているが、それ以外の利用者様に対しては、職員の日々の観察にて望んでいる事を察する等して対応している。傾聴を通して意見・苦情を引き出す手段もとっている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の便りや面会時等を利用して報告している。普段あまりこられない御家族様には電話にて逐一報告している。希望のご家族には連絡帳を使って報告することもある。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱があり、苦情の受付は、明示している。苦情があった場合には公開して対応するようになっている。家族には気軽に話しかけるような雰囲気作りを心掛けている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議又は申し送り時に意見や提案等を言う機会は十分にある。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	24時間、スタッフが常在しておりご家族様の意見や、利用者様の状態の把握に努めている。また、勤務時間にも手薄になる時間帯には、特に気をつけ柔軟な対応に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があった際には、詳細な引継ぎにて利用者様の不安を軽減している。また、利用者様個人の性格特性等、把握して対応 挨拶（自己紹介）をしっかりと受け入れていただけるように配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修においては職員がその必要性を認めている為、適宜参加している。また、受講後は報告書を作成し発表している。		
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修でグループホーム協議会のグループワーク等に参加しいろいろな施設など情報を交換している。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	現状悩みやストレスの軽減・解消に繋がっていない	○	面談を通して職員の意見や悩みを伝える機会を設けストレスケアに取り組んでいる。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自分の半年の目標を立て達成できるように向上心を持って、業務に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時には家族と面談を行い、心身状況や思い・希望ニーズを把握するよう努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望や家族のニーズに対し一番何が必要か見極めている。また、すぐに対応できる事なら、柔軟に対応している。	○  病院受診など一部家族に対応をお願いしているところがあるので、受診日などは勤務人員の調整をし、出来る限り家族の負担を軽減していきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時は家族も利用者様も不安な状態にあるため、急かさずゆっくりと寄り添ったケアを心掛けている。また、家族の話から記録に無いものの、些細な事が参考になる為、よく傾聴する。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お年寄りから教えていただくことは多くあり、感謝の気持ちを持って接し、支えあう立場も継続できるよう、馴れ合いにならないように注意していきたい。	○  利用者様の力が発揮できるような場面作りをし、また利用者様の気持ちを共感できるよう、行事日々の生活の中でも寄り添った介護に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望思いを受け入れながら入所によって家族との関係が希薄にならないよう、共有して取り組むという関係を構築できるよう日々の利用者様の状態報告を詳細に伝える。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は家族と利用者様の仲介役を、より良い関係に持っていけるようこなし、家族の役割を阻害しないように配慮している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人等は亡くなられている利用者様もいらっしゃるので、昔話を傾聴して対応している。また、今まで生きていらした証として関係が切れないう、本人の生きてきた過程を把握するよう努めている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の仲よし関係は尊重し、他の利用者様は孤立状態にならないよう配慮しながら声掛け等ケアしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一概には言えないが、その後相談や悩みを聞いている家族もいる。退居時（契約終了時）にも、そのような声かけを行なっている。	○	状態変化等により退所時は出来る限り入居者や家族の意向に添うよう退所先の支援を行なっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に希望等を聞いているものの日常の中での小さなサイン等を見逃さず困り事等を把握するよう努めている。又家族からも情報を頂くような事もある。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前居たサービス事業者からの情報の活用また、本人の価値観、生活環境をプライバシーに配慮しながら家族からも聞き取っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事・睡眠・排泄その他習慣等を個別に対応できており把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者は普段から利用者様との会話を意識して、取っている。本人の希望意見に沿った介護計画を作成する努力は怠っていない。ケア会議で職員間で討議もしており後日家族に承認を頂いている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化時は随時見直しを行なっている。見直しの際は職員だけではなく、利用者様本人からも情報を収集する等して、本人にとって真のニーズは何なのか考えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態、本人の言動変化のあった時は、その経緯を記録している。また、その情報を共有し実践、その後のケアへ繋げている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設の近隣には公園・病院（個人病院）・スーパーがあり、買い物・散歩等本人の要望に応じて柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の一員として近くの公民館や幼稚園・保育園の行事に参加したりしている。運営推進会議において、民生委員の方に出席して頂いている等関わりを深めている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2ヶ月に1回のペースで利用者様の希望でもある訪問理容サービスを利用している		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の開催日には参加し協力して頂けるよう働きかけている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけの病院を聞き把握している。入所してからも受診できるように配慮している。また、変更時には家族の希望や了解も得て行なっている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関があり利用者様が認知症に関する診断から医療を受けられるようにしている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	資格のある看護師は2名配置されており、また医療との連携強化に努めている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者は利用者様が入院したときは、家族に安心していただけるよう早期退院に向け、病院関係者と連絡を取り合っている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に向けた看取りについては、早くから医療、家族との話し合いを行なっている。また、主治医とも日常の健康管理や、急変時の対応の方針等、確認している。	○	利用者様の状態によって今後必要であれば訪問看護の連携体制を整えたいと考えている。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として対応が出来るか出来ないか、不安を解消する為の話し合いはしている。また、医療機関や家族との連携を密にして連携を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際は、本人のダメージを最小限にする為にも家族への協力を働きかけ、移行先への詳細な情報提供を行なっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は基本的理念に基づき人としての尊厳の重視、プライバシーに配慮した業務を心掛けている。個人情報の記録等は持ち出す事禁とし、他利用者様の目につかない所に保管する等心得ている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人の希望、意思決定選択等していただいている。また、言葉以外にもしぐさや表情を観察し、本人の気持ちを理解するようにしている。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在職員の人数も不足している為、日々のケアが時間に追われ介護側のペースで業務を遂行している。	○	利用者様の体調天候を見て、本人の希望を聞いて、決して急がせないように利用者様主体を重視して支援していきたい
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望で行きつけの美容院に行かれている方もいらっしゃる。また、身だしなみは本人の選択、決定に任せ職員は支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りにも利用者様の希望を取り入れている。買物、下ごしらえ、調理、後片付け等手伝って頂き、職員が同じテーブルで食事を取っている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、嗜好品（酒・タバコ）を嗜む利用者様は居ないが、利用者様の希望にそい、近所のスーパーと一緒におやつ等買物に出ている。	○	嗜好品は本人の希望を可能な限り取り入れるようにしている。
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各自の排泄パターンを理解し、記録している。自立に向けトイレ誘導・オムツの使用の見直し等支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は入浴時の羞恥心や入浴困難者を理解して支援している。また、入浴拒否時は、強引な声掛けせず、本人の意思も尊重している。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを整え、日中の過ごし方を工夫して安心して眠れるよう支援している。どうしても必要な際には、家族や医療機関と相談して、眠剤の服用をしていただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の生活歴や家族からの情報に基づきなるべく本人が好きな役割を与えることにより、日常生活に張りを持ってもらっている。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57 ○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時は希望者に支払いできるような支援している。そのお金の管理は利用者様・ご家族様の了承を得て預かり帳を使って管理している。		
58 ○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の身体状況に合わせ、買物、散歩ドライブ等に出かけている。	○	
59 ○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話から、本人の行きたい所を把握し家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。	○	利用者様一人ひとりの希望に添えるよう個別ケアに取り組んでいる。
60 ○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の利用者様には、電話での会話を仲介し手紙の代筆等は支援している。又、プライバシーにも配慮している。		
61 ○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族及び知人の方が気兼ねなく訪問、面会出来るよう職員は過ごしやすい雰囲気作りをしている。家族と利用者様が静かに過ごせるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
62 ○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は身体拘束の内容やその弊害について理解しており、やむを得ず身体拘束を行なう際には家族に説明し、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来る限り施錠はしないようにしているが、階段は転落の危険があるため、やむを得ず施錠している。		
64 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りして、所在確認や安全確認をしている。スタッフの連携や申し送りの時の引き継ぎ等も、利用者様のその日の状況を把握して対応している。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、包丁等は、決められた場所に保管しており、利用者様の状態に合わなくなった時は再検討している。		
66 ○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の利用者様に対して想定されている事故に対しては、日頃から職員間で話し合っている。また、ヒヤリハットのノートを作成し職員の回覧を行い原因や対応策を検討している。		
67 ○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成している。そのほかに職員は応急手当や、救命救急の研修に参加する等、努力している。	○	看護師と相談のうえ、定期的に訓練はしている。今後は消防署の救急に依頼し急変時に備え定期的に救命救急訓練を行なって行きたい
68 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を問わずこの消火訓練等を消防の協力の元、定期的実施している。また、運営推進会議等で地域の人々の協力をお願いしている。	○	近隣、地域の消防団の協力を得て放水訓練を定期的に行なって行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの認知症状態、身体状況に合わせ、その対応策を、家族に説明し個人に起こりうるリスクについて、適宜話し合っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者様の小さな変化の異常を、見逃さないように、注意を払っている。変化や、異常の際には記録に全て記載し、全職員に共有、速やかに医療機関に連絡、相談している。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の薬の内容を極力把握しており、薬一覧表も活用している。また、確実に内服できるように見守り介助し、薬の変更時は、全職員に伝達している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ自然排便できるよう、職員は利用者様の排泄状況を把握している。便秘の際には十分な水分、トイレ誘導のタイミング、牛乳等の摂取を促し、安易に薬に依存しないよう配慮している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の手入れの必要性は全職員周知しており、起床時・食後・就寝時に声掛けや一緒にする等支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、お粥や刻み食、個別に対応している。また、食事量の記録・水分の摂取量等把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防等のマニュアルは作成されており、それに関する研修にも参加している。また、流行時には情報収集に努め早期対策している。	○	年一回、保健所に依頼し感染症予防・食中毒予防について講義していただいている。
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に冷蔵庫内の掃除をする。また、調理器具、ふきん等の漂白、殺菌の衛生管理を行い、保健所の指導のもと、マニュアルの作成に応じて実行されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近に季節の花や観葉植物を置いて入りやすい雰囲気作りをしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し等はブラインドを作って調節しており、職員も足音等、騒がしくないよう配慮している。テレビの音量は利用者様に合わせ調節しており、夜間の居室の照明は、安全面を優先して一人ひとりに合わせている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面で共有空間は食堂しかなく、食堂でくつろぐ事が多いが、気のあった利用者様同士は互いに居室を訪問しあって、談話されたりしている。	○	2階にはベランダ（バルコニー）がり、眺めも良いのでベンチを置くなどして活用していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご家族の写真・小物等馴染みのものを持ってきて 頂けるよう、家族に協力を呼びかけている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	窓の開放、換気扇、消臭剤等で随時対応してい る。又日々の温度・湿度を把握しながら利用者様 の状態に合わせて室温調節している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりの設置をし本人の身体機能を活かした対応 をしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	本人の居室前には利用者様の写真、わかりやすく 書かれた表札等、間違えないよう工夫している。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	建物の外にはベンチが置かれていて、天気の良い 日にはくつろいで頂き、畑もあるので収穫時期に は手伝っていただいている。また、植物の水や り、洗濯干し等個人に合わせて活動していただ いている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

公園・幼稚園・保育園・小学校が近くにあり、四季の風景や子供達の様子を見たり、又交流が少しずつ増えていくので、利用者様の方々の喜ぶ様子がうかがえ、立地的に良い環境に恵まれている。